



宇都宮市教委の小堀茂雄教育長(右)にイチゴを贈呈



下野市教委の石崎雅也教育長に(右)にイチゴを贈呈



上三川町役場で行われたイチゴ贈呈式

## イチゴ寄贈 宇都宮・下野・上三川の児童に

4 良い経験も  
みんなに  
12 つくる農業  
JA

の横松久夫組合長らは、食育活動の一環として、下野市教育委員会(1月17日)、上三川町教育委員会(18日)、宇都宮市教育委員会(19日)を訪れ、管内で生産されたイチゴ「どりおとめ」を小学校の学校給食用に寄贈しました。

1月19日に宇都宮市役所を訪れた横松組合長は、小堀茂雄教育長にイチゴを贈呈しました。小堀教育長は「宇都宮市内は児童数も多いので、たくさんのイチゴをいただきありがとうございます。子どもたちはイチゴが大好きです。地産地消の教育にも役立つ」と感謝の言葉を述べました。感謝状を受け取った横松組合長は「生産者の努力により今年もみずみずしいおいしいイチゴができた。地元産のイチゴを味わってほしい」と話していました。JAは地産地消の推進などを目的に2016年度から毎年寄贈を実施しています。

# 特集

「Zutto きよはら」が

## 第3回栃木県農業大賞

### 地元愛あふれる活動紹介

スマート農業や農村振興など新規性や独自性の高い取り組みをしている農業者や団体を表彰する、第3回栃木県農業大賞の農村活性化の部で「Zutto きよはら」(山口幸夫代表)が最高賞の大賞に選ばれました。宇都宮市の東部に位置する清原地区の活性化に取り組む挑戦を続け、地元愛にあふれる「Zutto きよはら」を紹介します。

#### 活動の動機と背景

清原地区の農家やレストラン、福祉施設などの地域を愛する人たちが集まり、多くの人に「清原地区を知ってほしい。訪れてほしい」との思いでプロジェクトが生まれました。

清原地区の農資源を生かし、「農の体験」「食べる」「学ぶ」「買う」「観る」「遊ぶ」を通じて、清原の豊かさを伝えていきたいとの思いから、来訪者との交流を持ち、清原をもっと楽しく、ずっと愛し、大切にしたいという輪を広げています。

#### 誕生

2014(平成26)年、地域の農業者らが地元清原の大地でしっかりと根を張り、愛情を十分かけて育てた野菜を使ったピクルスの開発プロジェクトに着手。これまで地域農業の中核者として活動し、栃木県農業士に認定された山口さんを代表に「Zutto きよはら」が誕生しました。

#### 具体的な活動

##### 農産物の6次産業化(清原の農産物を使った商品開発)

目的 地域農業者の意識向上に向け、人とのつながりを広げ、高付加価値化

内容 2016年度 きよはら大地のグラノーラ開発

2018年度 サラダめん開発

2019年度 スムージー開発

##### グリーン・ツーリズム推進 2015年度~

目的 子どもの食育や農業体験、都市農村交流を通して清原地区への訪問による地域全体の活性化

内容 収穫体験、農産物や加工品の試食・試飲、ナシ棚の下でのランチ、文化・風習の学習など

##### 農福連携(ユニバーサル農業) 2015年度~

目的 福祉施設利用者と一緒に使う農作業を通じた地域活性化

内容 果樹や野菜の園場での除草、収穫選別・袋詰め、片付け、収穫用具の洗浄



Zuttoきよはらが企画から運営まで行った  
野菜の収穫体験



ナシ棚の下という非日常な空間を楽しむ家族

### 浅川敏一副代表のコメント

わたしたちの活動に賛同する仲間を  
増やしていきたい。  
農業を通して清原地区の魅力を  
発信していく。  
これからも自分たちが楽しみながら  
いろいろなイベントを  
企画・実践していきたい。



Zuttoきよはらのメンバー



メンバーが生産した農作物と加工品



浅川副代表(左)と山口さん夫妻

## 人・物・金などをしっかりと 事業承継研修会



8

農業技術  
相続

JA



南部宮農経センターで行われた事業承継研修会

JAは1月18日、事業承継研修会を宇都宮市砂田町の南部宮農経センターで開きました。農業での事業承継を考えている就農者、県・宇都宮市・JA栃木中央会・JAの担当者ら25人が参加し、親子間の話し合いなどをきっかけにしたスムーズな事業の承継について学びました。

最初にJA栃木中央会の担当者が事業承継の流れを説明しました。日本の農業経営の約98%が家族経営で成り立っているため、事業承継には「受け継ぐ側」「渡す側」とともに、多くの「やるべきこと」

が存在していると説明。「単なる『農業技術の承継』や『土地や財産の相続』だけではなく、『人・物・金・情報・顧客』の5つがしっかりと承継されなければ、事業承継が終わったとはいえない」としました。

また、県河内農業振興事務所の担当者が家族経営協定書に取り組むことの必要性を説きました。家族での話し合いの結果をもとに家族経営協定や事業継承計画書を作成、保管することが大切とし、「事業承継に必要な手続きは複雑なものもあるため、専門家の活用」を勧めました。宇都宮市の担当者は「経営継承・発展支援事業」での補助対象者の要件などを説明しました。

参加した生産者からは「相続と承継の違いや承継に向けた手続きの進め方が理解できた」との意見が寄せられました。

## 組合長に伊澤氏 瑞穂野南部集落営農組合が設立総会



8

農業技術  
相続

JA

JA

JA

瑞穂野南部集落営農組合の設立総会



**瑞**穂野南部集落営農組合は1月23日、設立総会を宇都宮市砂田町の南部宮農経センターで開きました。JAの横松久夫組合長、県・宇都宮市の担当者や地元の自治会長ら約30人が出席しました。組合長には、伊澤幸一さんが選任されました。

横松組合長は「高齢化や担い手不足など農業を取り巻く環境はますます厳しくなっている。これからは、この組合が地域の活性化を担っていってほしい」とあいさつしました。

組合設立に向け、2018年から地域検討会や視察研修会を実施。2020年から地域農業代表者らにより、地元での説明会を開き、集落営農組織化についての理解を深めてきました。総会では「農地の保全、農業生産性の向上、農業経営の安定と地域農業の振興を促進することを目的」にした規約など6議案を可決しました。

伊澤組合長は「農業者の高齢化や耕作放棄地の増加などの厳しい農業情勢の中での設立になった。組織運営面でも困難を伴うと思うが、全組合員が協力して、地域の農業を担っていく」と話しました。

## 落ち葉処理で重要病害抑制を 梨専門部が防除暦説明会

令和4年産梨専門部防除暦説明会で行われた



**梨** 専門部は1月25、26日の2日間、「令和4年産梨専門部防除暦説明会」を宇都宮市平出町の県農業共済組合河宇支所はじめ同市内2カ所で行いました。新型コロナウイルスの感染拡大を考慮し、3密を避けるため雀宮・清原・城山・河内4支部に分かれ、計約100人が参加しました。

県農業共済組合河宇支所で行われた雀宮支部の防除暦説明会には、同支部の役員や県・JAの担当者ら18人が参加しました。県河内農業振興事務所の担当者が2021年産ナシの「人工授粉・結実に係る

アンケート」結果を報告。授粉方法は梵天授粉が有効だったことを挙げ、「花粉希釈の高濃度化と授粉回数の増加がアンケート結果から確認され、部員の人工授粉に対する意識改革が進んでいる」と分析しました。

続けて、生育経過および病虫害発生状況を説明。昨年は、黒星病の発生を抑えられたが、本年も引き続き抑制できるように、越冬期の落ち葉処理を継続して実施し、園内の病原菌密度の低下を図ることを勧めました。2022年産梨専門部防除暦では、産地の実情に合わせた農薬の組み合わせや、より効果的な使用方法について説明しました。

JAの橋本誠技術顧問は「黒星病や炭疽病対策として、園内の落ち葉処理が大切だ。今年も桜の開花予想が平年より早いので、ナシの開花も早まるだろう。剪定作業は遅れないようにしてほしい」とアドバイスしました。

## 直売所向けの野菜を

### 少量多品目栽培講習会

**JA** は1月26日、少量多品目栽培講習会を宇都宮市下小倉町の上河内営農経済センターで開きました。生産者、種苗会社・JAの担当者ら20人が参加し、これから栽培する野菜の特徴や栽培方法などを学びました。

同センターの営農課長は「直売所には、安全安心な作物が求められている。また販売力を高めるには、見た目の包装も大切な要因なので、今日の講習会を有意義なものにしてほしい」とあいさつ。種苗会社の担当者は、直売所向けの野菜について、従来品種より機能性成分が豊富なトマト、果肉が柔らかい大長ナス、苦みを抑えたピーマンなどを紹介しました。品種ごとの栽培期間や管理のポイントを説明しました。

JAの担当者はJAグリーンかみかわちの販売データから野菜ごとの直売品と仕入れ品の割合や傾向について分析。荷造りのポイントでは、規則正しく並べるなど丁寧な荷造りを心掛けることが大切としました。かわいらしさや高級感を演出することで差別化を図ることも必要と指摘しました。



上河内営農経済センターで行われた少量多品目栽培講習会



和牛一大産地として決意を新たに  
 (1月6日、矢板市場新年セリ前式典)  
**JAうつのみやの横松久夫組合長と  
 見形繁常務は6日、  
 矢板市越畠の矢板家畜市場セリ場で  
 2年ぶりに行われた新年セリ前式典に参加しました。**  
 矢板市場の上場頭数は全国100市場のうち11位。  
 県の産出額は1,225億円で全国6位。  
**防疫体制・衛生管理を強化、  
 AIの活用で生産性向上を図り、  
 「和牛一大産地とちぎ」を全国に  
 アピールしていきます。**  
**横松組合長は「好調な出だしだ。  
 生産者には引き続き血統の良い牛の生産を、  
 購買者には宇都宮管内で生産された  
 子牛の購買をお願いしたい」と話しました。**



新年セリ前式典に参加した  
 横松組合長(右から3人目)と見形常務(右から4人目)



矢板市場で行われた新年的初セリ



JAグループ栃木大規模災害統一訓練に参加する横松組合長



被害状況を報告する横松組合長



事業継続計画に沿った行動を  
 (1月19日、本所でJAグループ栃木大規模災害統一訓練)  
**新型コロナウイルス感染防止の観点から、  
 規模を縮小して継続業務訓練のみ実施。**

**JJA中央会および連合会と  
 県内10JAをWEBでつなぎ、  
 JAグループ栃木対策本部緊急会議を開催しました。**  
**横松久夫組合長は、宇都宮市東部地区などに  
 被害があった設定で被害状況と対応策を報告、  
 他のJAからの報告も確認しました。**  
**訓練を終えた横松組合長は  
 「大雨など自然災害が増加している。  
 年に一度でも訓練しておけば、  
 実際に大規模災害が起きた時に具体的に  
 どういう行動をとればよいかがわかり、  
 大変意義がある」と話しました。**

組合員の皆さまからの地域の話題や活動報告をお待ちしております。写真を添えてお送りください。  
 ※紙面の都合上、掲載されない場合もありますのでご了承願います。詳しくは総務課組合員広報係まで。

# 管内インフォメーション

第46回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール県表彰式が1月7日、宇都宮市平出工業団地の栃木県JAビルで行われました。県内の小・中学校合わせて、作文の部3,796点、図画の部3,158点の応募があり、当JA管内から作文2点が金賞に輝きました。ここで、2カ月にわたって金賞受賞作品をご紹介いたします。(学年は受賞当時の学年)

## 作文の部:金賞

金賞 宇都宮市立陽東小学校  
6年 金澤 橙子さん

## 作文の部:金賞

金賞 上三川町立上三川小学校  
4年 海老原 健心さん



作文の部で金賞を受賞した金澤さん

## 【作文部門】栃木県コンクール..金賞

### 「ご飯は私の元気の源」

宇都宮市立陽東小学校  
六年 金澤 橙子さん

私が、「ご飯の持つ力」を感じたのは最近のことです。中学受験をする私は、この夏、朝の九時から夕方の五時まで塾で勉強すると決めました。そんな私に、母は毎朝五時に起きてお弁当を作ってくれました。塾では、私が解けない問題を次々とこなす同級生を前に、落ち込んだり悔しかったり、精神的に辛くなることもあります。そんな時、母が作ってくれたお弁当のふたを開け、おにぎりを食べると、おにぎりと一緒にその辛い気持ちほどの奥へ押し流されていきました。気持ちが不思議とリセットされ、「よし、また午後から頑張るぞ!」という気持ちになるのでした。おにぎりは、そぼろ、わかめ、鮭などと毎日味が違い、私が食べやすいように一口サイズになっていました。母のそんな気遣いを感じながら、私もま

たその気持ちに応えたいと頑張ることで、きた気がします。おにぎりが私と母をつないでくれているよう気がしました。お弁当を作ってくれた母や、食材を私たちに届けるまでにたずさわった人々を込めて「いただきます」と「ごちそうさまでした」を言うようにしました。すると、私の中では、お弁当作りに関わったすべての人間に「頑張れ!」と、応援されているような気がして、とても元気がわいてきます。ご飯の持つ力は不思議です。

特に、私を元気づけてくれているのは、「お米」です。なぜお米を食べると元気が出るのか気になった私は、お米の栄養について調べてみました。お米には、「糖質」「脂質」「たんぱく質」の三大栄養素などが含まれていて、栄養バランスの取れた素晴らしい主食だということが分かりました。

お米の素晴らしいを理解することができ、人々のお米に関する思い出が増えていくことを私は願っています。

おどろいたことがあります。それは、酒造りのために「米作り」にもこだわっている、ということです。毎年変わらない味を保つために、少しずつ変化するお米の出来と向き合うことを大切にしているそうです。本来は栄養バランスの取れた主食でありながら、大人を魅了してしまうお酒にまで姿を変えお米のパワーに感心するばかりです。

おどろいたことがあります。それは、酒造りのために「米作り」にもこだわっている、ということです。毎年変わらない味を保つために、少しずつ変化するお米の出来と向き合うことを大切にしているそうです。本来は栄養バランスの取れた主食でありながら、大人を魅了してしまうお酒にまで姿を変えお米のパワーに感心するばかりです。

# 宮農情報

## 水稻



育苗の準備をする季節になりました。保有米を含め、100%種子更新をしておいしいお米の安定生産に取り組みましょう。

### 種子の準備

種子糊は10g/㎡当たり乾燥糊で3g～5gを目安に準備します。

### 種子の消毒

種子消毒は必ず行いましょう。消毒済みの種子は殺菌剤の処理のみであるため、殺虫処理をする際は、スミチオン乳剤を加え、10度以上の停滞水で3日間、水を替えずに浸種します。

また、温湯消毒をする場合は、種子糊を網袋に詰め、温湯消毒器の湯温を60度にし、10分間浸漬します。浸漬後は直ちに冷水で冷却します。温湯消毒後すぐに浸種する場合は、乾燥させずに浸種します。播種まで期間がある場合は、ムレないように乾燥させ、清潔な冷暗所に保管します。

未消毒種子を使用する場合は、必

ず殺菌・殺虫処理を行い、発芽の揃いをよくするため、浸種期間を充分に確保しましょう。

### 浸種

水温を13度前後に保ち、2～3日ごとに水を替ながら、消毒種子は積算温度1200～1300度、未消毒種子は1000～1200度を目標に行いましょう。

3月中旬～4月上旬は最低気温が氷点下に近くなる日もあることから油断せずに保温措置をとりましょう。

種子糊は10g/㎡当たり乾燥糊で3g～5gを目安に準備します。

### 催芽

催芽温度は28～30度に設定し18～20時間で均一に催芽させ、大部分の糊が芽長1cm程度になっているのを確認してから播種します。

### 播種

一箱当たりの播種量は、乾燥糊で150g以下とし、均一に播種します。覆土は、施肥・消毒した床土と同じものを使用します。

### 出芽

平置き出芽法

の場合は、ハウスに展開後、シルバー・ラブ等の専用資材で被覆します。ハウス内が35度以上になると、換気を行いましょう。

### 雑草防除

雑草は刈り取り作業の支障になるだけでなく品質低下を招きます。雑草が発生している場合は、茎立ち期までに、防除しましょう。その際は、十分な散布水量で雑草の葉がよく濡れるようにしましょう。

### 床土の準備

床土は保水力が高く通気性が良いものでpHが5.0～5.5の赤土か山土を使用します。pHの高い土は、苗立枯病・ムレ苗が発生しやすくなります。pHの高い水田や畑の土の使用は控えましょう。

### 麦

今年産の麦は、平年よりも日照時間が多いためかわらず、少雨等の影響により生育量は少なくなります。今後の降雨等に備えて、排水対策の点検を行いましょう。

### 麦

3月上旬の茎立ち期直前の(幼穂長2cm)の麦踏みは、分けつを良くし、成熟ムラのない倒伏しにくい麦にする効果があります。圃場の土が、靴に付かない程度に乾いていることを確認してから実施しましょう。

### 麦踏み

3月上旬の茎立ち期直前の(幼穂長2cm)の麦踏みは、分けつを良くし、成熟ムラのない倒伏しにくい麦にする効果があります。圃場の土が、靴に付かない程度に乾いていることを確認してから実施しましょう。



行い、再び被覆して1～2日すると出芽します。

電熱育苗器を利用するときは、育苗器内を30度に設定し芽が1cmになつたらハウスに展開します。



## 『青壯年の記』 ～Youth & Middle～

**清** 原支部は現在44人で活動しています。「コロナ禍で地域のためにできることを考え、地元飛山の里福祉会で行つてます。2年連続で中止となつた農業祭は、新型コロナ感染防止対策を考慮しドライブスルー形式に形を変えて開催され、青壮年部も農産物の出品・販売に協力しました。多くの盟友の協力を受け、米、トマトや白菜に加え、ナシやリンゴなど幅広い農産物を提供しました。品目にとらわれず、生産者同士で活動、交流できるのが青壮年部の魅力のひとつです。今後も地域に貢献できる農業を目指して活動していきたいと思います。

## 清原支部

### 河内支部

内支部では、子どもたちに米作りの苦労や収穫したお米を食べる喜びを知つてもらい、農業への関心と理解を高めるため、毎年農業体験活動を行つています。岡本西小学校の5年生を対象に田植え体験、稻刈り体験を行い、収穫したお米を提供しました。また地元の保育園と協力し、サツマイモの定植、収穫体験を行いました。後日、園児たちから焼き芋と感謝の手紙を頂き、農業を行う喜びを改めて実感しました。

今後も地産地消に向けた地域の方々との関係作りや、未来の農業者を育む活動に取り組んでいきます。



児童の田植えを見守る盟友



児童に稻刈りの指導を行う盟友



フードバンクに提供した農産物



飛山の里福祉会に農産物を提供

**青** 壮年部は現在約260人で構成され、各地区の農業を担う若手農業者が協力し、さまざまな活動を行つています。コロナ禍で地元のボランティア団体などから協力を求める声が急増し、今年度は計6回さまざまな農畜産物や食品を提供しました。中でも、フードバンクに米約500kg、サツマイモ100kg、タマネギ50kgを手渡しました。

多くの盟友の積極的な協力により、今年度も支援活動を継続できました。青壮年部では、他にも魅力ある活動を行つています。また、今後も活動を継続していくため、多くの新規盟友を募集しています。興味がありましたら當農企画課（028-6225-3388）またはお近くの當農経済センターまでお気軽にお声掛けください。

### 青壮年部全体(本部)



子ども食堂に農産物を提供する黒崎浩史部長(左)



フードバンクに農産物を提供する吉田昌史副部長(左)

# ワンプレートレシピ One plate recipe

## 「サワラとカブの ちら蒸し」



### 材料(2人分)

サワラ(切り身で50g)·····	2枚
カブ(半分に割って下ゆでする)·····	1個
マイタケ·····	2房
ナバナ(下ゆでする)·····	2本
スダチ·····	1/2個
もみじおろし·····	適宜
ポン酢·····	適宜
かつおだし·····	300ml
だし汁A	
料理酒·····	大さじ2
塩·····	小さじ1/2
しょうゆ·····	小さじ1/2

### 作り方

- ① サワラは塩を振って1時間ほど置いた後、さっと湯通しする。
- ② 鍋にだし汁Aを沸かしサワラ、カブを入れ中火で3、4分ほど煮て弱火にし、ナバナとマイタケを入れさっと火を通す。
- ③ ②を器に盛り付け、ポン酢ともみじおろし、スダチを添えて出来上がり。

茨城県笠間市にある  
天晴(旧キッチン晴人)  
オーナーシェフ  
ながいともかず  
永井 智一



## 今月の直売所情報

### トマトの美味しい時期がやってきました!!

JAうつのみや直売所では、魅力あるトマトが種類豊富です。ぜひご来店ください!



#### お米の特売日

JAうつのみや お薦めのみやおとめ(コシヒカリ)をお買い得価格にて販売します!!  
JAグリーンインターパーク 直売所 & JAグリーンかみかわち直売所



特売 南河内  
グリーンセンター  
第3木曜は特売デー

4月からの営業時間の変更について

店舗	現在(11/1~3/31)	4/1~10/31
JAグリーンインターパーク 直売所	9:00~16:00 定休: 第2火曜日	8:30~17:00 無休

南河内グリーンセンター  
生産者さん募集!!

詳しくは南河内営農経済センター  
TEL: 0285-48-2215 営農課 直売所担当まで



# 上河内宮農 経済センター

だより

各支所の活動や地域の情報を届けします!



上河内支所（アグリジャンプ2021年4月号掲載）に引き続き第2弾、  
上河内地区管内のお勧めスポットをご紹介します。

羽黒山の山頂に建つ羽黒山神社です。今里町にある羽黒山神社は、康平年間(1058-1065)に創建されたといわれています。江戸時代に宇都宮城主の奥平家や戸田家に信仰され、農民にも広まりました。神社の中には「力持ち」（力士像）など精巧な彫刻が飾られています。毎年11月23日に行われる例大祭で種糲を貸し付ける風習があり、農家では種糲を借り受けて、自家所有の種糲と混ぜて苗を育てると豊作になるといわれています。収穫後はお礼参りとして借りた種糲を翌年倍にして返します。



羽黒山神社

密嶽神社



夫婦杉



羽黒山神社の奥には密嶽神社、俗に隠居羽黒山神社といわれる神社があります。本殿の彫刻は農民の春の種まきから秋の収穫までの農作業を表したもので、貴重な民俗資料です。境内に続く石段の脇にある樹齢450年といわれる夫婦杉は、羽黒山神社参拝者を見守り続けている「縁結びの杉」ともいわれています。

上河内地区は羽黒の峰に見守られ、鬼怒の清流の恵を受け、農業を中心として発展した素晴らしい町です。ぜひお越しください。お待ちしております。



各種お問い合わせはこちらへ

## 支所・センター電話番号

中央支所	028-633-3467	南河内支所	0285-48-2211
宝木出張所	028-622-6111	上三川支所	0285-55-1510
平石支所	028-661-4311	宇都宮北部営農経済センター	028-665-0550
南部支所	028-656-1020	宇都宮西部営農経済センター	028-658-6565
城山支所	028-652-0711	宇都宮南部営農経済センター	028-656-8484
北部支所	028-665-0003	宇都宮東部営農経済センター	028-660-3535
豊郷支所	028-624-8011	上河内営農経済センター	028-674-2164
清原支所	028-667-0151	河内営農経済センター	028-673-6911
姿川支所	028-658-6881	南河内営農経済センター	0285-48-2215
上河内支所	028-674-3333	上三川営農経済センター	0285-55-1511
河内支所	028-673-3135	住宅ローンセンター	028-622-7100

■ キャッシュカードの紛失・盗難  
フリーダイヤル0120-082065

■ 夜間・土・日・祝祭日の自動車事故(24時間受付)  
事故受付センター フリーダイヤル0120-258931

■ JA葬祭(24時間受付)  
アトラス宇都宮ホール 028-660-5555  
アトラスファミリーホール鶴田 028-633-9200  
アトラス上三川ホール 0285-55-1555

■ LPガス関係 灯油・軽油・A重油の配達  
フリーコール 0800-700-0085(通話無料)  
※緊急連絡先028-633-0085